

海外安全対策情報（2024 年 10 月～12 月：コロンビア）

1 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）全般

2024 年 12 月末の統計によれば、殺人事件は前年比 1%減少しているが、恐喝事件は 21%増加している。また、みかじめ料の要求のような恐喝事件、偽の自動車売買情報や求人広告でおびき出し、その家族に金銭を要求する事件も非常に増加している。さらに、SNS を通じて知り合いになり、飲食店や自宅等で飲食をする機会に乗じて、飲食物に睡眠薬を混入させて意識を失わせる睡眠薬強盗被害や、警察官に成りすまして職務質問を装い金品をだまし取る、道路に「まきびし」をまいてわざと運転中の車両のタイヤをパンクさせ高額な修理業者を紹介する、いわゆる「ぼったくり」行為等、様々な手口の犯罪も引き続き発生している。

誘拐事件の被害者はコロンビア人の富裕層であることが多いが、都市部で外国人が被害者となる短時間強盗（タクシー等で目的地以外の場所に連れて行き金品を強取する手口）も発生している。さらに都市部では、前述のとおり SNS や出会い系アプリを通じて知り合った異性から、気づかぬうちに睡眠薬で眠らされ金品を盗まれる外国人や、違法薬物を過剰摂取して死亡する外国人が増加しているため、自身の行動に十分に注意する必要がある。

具体的には、人気のない道路は日中でも注意する、身の回りの物から目を離さない、怪しい人物に狙われていないか注意する、乗車中に信号等で一時停止した場合でも不審者が付近にいないか確認する、むやみに車の窓を開けない（物乞い等に施しを与える場合にも直接手渡さない）、飲食店で出会った人物やアプリで知り合った人物を安易に信用しない等、常に警戒を怠らない心構えが必要である。万が一、強盗やひったくりに遭った場合は、生命を第一に考え、絶対に抵抗せず、盗まれた物を取り返そうとしてはいけない。

（2）邦人犯罪被害事案

- ・ 10 月下旬、ボゴタ市セントロのホテルに宿泊中、ロッカー内に旅券、ノートパソコン、携帯電話を保管していたところ、何者かに鍵を壊され盗まれた。

2 テロ・爆弾事件発生状況・関連報道

2024 年 12 月末の統計によれば、テロ行為等は前年比 47%増加した。これは、カウカ県、バジェデルカウカ県、ノルテデサントアンデル県カタトゥンボ地方等で、政府と違法武装勢力との戦闘や、警察署や軍の施設等、治安部隊に対する攻撃が相変わらず発生しているためであり、こういった地域に不用意に近づかないことが大切である。また、最近、恐喝事件に絡み、金銭の要求に応じない被害者を脅すため爆発物を投てきする等の行為も見られる。

なお、近年の主なテロ・爆弾事件としては、ボゴタ市では 2017 年 6 月、ショッピングセンター「アンディーノ」においてフランス人女性を含む 3 名が死亡する

無差別テロ事件が発生、2019 年 1 月、市内の警察学校内で学生 22 名が死亡する E L N による自動車爆弾が発生しているほか、上述の 2022 年 3 月 26 日のボゴタ市南部のシウダー・ボリーバルの交番（C A I）の爆弾テロでは、付近にいた児童 2 名が死亡、勤務中の警察官 1 名を含む 25 名が負傷、交番付近の家屋等約 50 戸に物的被害が生じており、今後もテロへの警戒は必要である。

2024年

- ・ 10月 1 日 アンティオキア県メデジン市ラ・アルプハラ近郊で、ヒットマンによる銃撃があり、狙われたカップルの男女が死亡、女性 2 名が負傷。
- ・ 10月4日 カウカ県パエス市で、軍が即席起爆装置を発見し除去。
- ・ 10 月 7 日 ボリバル県サンタロサデルスル市農村部で、軍が作戦実施中のところ違法武装勢力の攻撃を受け、兵士 9 名が負傷。
- ・ 11 月 7 日 バジェデルカウカ県ハムンディ市の住宅街で爆発物が爆発。
- ・ 11 月 21 日 カウカ県アルヘリア市プラテアドで軍と違法武装勢力が衝突。兵士 1 名が死亡。
- ・ 11 月 20 日 チョコ県アトラト市長宅に爆発物が投てきされる。負傷者なし。
- ・ 11 月 22 日 アンティオキア県アノリ市ラ・プランチャ地区において、ELN による爆破テロが発生。兵士 5 名が死亡、5 名が負傷。
- ・ 11 月 30 日 カウカ県エルボルド市において警戒中の警察官がバイク爆弾による爆発で負傷。
- ・ 12 月 16 日 バジェデルカウカ県ハムンディ市ラスピニャス地区の検問所において、バイク爆弾が爆発し兵士 2 名が死亡。